
令和3年度 朝来市議会 高校生議会 会議録

令和3年8月5日（木曜日）

議事日程

令和3年8月5日 午後1時00分開会

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

日程第3 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

日程第3 一般質問

高校生議員（16名）

1番	名倉 みほ君	2番	柴田 唯君
3番	桐山 桃君	4番	関 惇平君
5番	日下部 蓮君	6番	津森 恵斗君
7番	上垣 凜夏君	8番	藤原 朱里君
9番	藤沢 希君	10番	村田 萌佳君
11番	植村 琴寧君	12番	坂本 悠紀君
13番	松田 聖琳君	16番	秋山 海渡君
17番	竹島 朱音君	18番	生田 瑞華君

市議会議員（15名）

嵯峨山 博君	藤本 邦彦君
鈴木 逸朗君	岡田 和之君
足立 義美君	藤原 正伸君
丸尾 行子君	吉田 俊平君
浅田 郁雄君	森田 龍司君
森下 恒夫君	刈本 稔君
上田 幸広君	小山 裕君
西本 英輔君	

来 賓（2名）

市長 ————— 藤 岡 勇君 教育長 ————— 千 歳 誠一郎君

事務局出席職員職氏名

議会事務局長 ————— 宮 元 広 司君 議会事務局次長 ————— 佐 野 あや子君
議会事務局長補佐 ————— 小 谷 英美子君 議会事務局主査 ————— 大 林 厚 之君

午後 1 時05分開議

○議会事務局長（宮元 広司君） 皆さん、こんにちは。定刻となりましたので、ただいまから、令和3年度朝来市議会高校生議会を始めさせていただきます。

最初に、主催者を代表し、朝来市議会、湊本議長が御挨拶申し上げます。

○議長（湊本 稔君） 皆さん、こんにちは。梅雨明け後、猛烈な暑さが続いておりますけれども、皆様におかれましては、御自愛いただきますようお願い申し上げます。

さて、高校生議会を開催するに際し、生徒の皆さん、校長先生をはじめ学校関係者の皆さん、そして、保護者の皆様の御理解と御協力を得て、無事、開催する運びになりました。皆様に深く感謝を申し上げ、お礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、朝来市議会は、今年の3月定例会をもって100回開催ということになって、記念行事をしようということになりました。一般的によくある議場でのコンサートなどではなくて、今後につながるものをやろうということになりました。幸いにも市内の高校においては、地域課題探求の取組が熱心に行われており、その授業の中から、皆様方が見つけた朝来市の問題について質問していただいたり、提言していただける高校生議会を開こうと決定いたしました。

そして、本日、生野高校、和田山高校の生徒代表の皆さんによって、ようやく高校生議会が朝来市において初めて開催されることになりました。

さて、朝来市議会におきましては、議会改革に取り組んでおります。議会モニター制度を導入したり、タブレット端末の導入と文書共有システムによって、仕事の効率化を図り、また、経費の削減にも努めております。さらには、ケーブルテレビを活用した議会報告会を開催したり、意見箱を各支所に設置するなどして、日々、議会改革に取り組んでいるところでございます。

こうした取組が、日本で議会改革を唯一評価しております早稲田大学のマニフェスト研究所によりまして、昨年度は、全国1,700以上ある地方議会の中から、朝来市議会は第20位という評価を得ました。誠にありがたいことでございます。

そして、今後とも朝来市議会としまして、市民の皆様が開かれた議会、信頼される議会を目指して、小さくてもきらりと光る田園都市を目指す朝来市のまちづくりにふさわしい議会となることが、市民の皆様の幸せにつながるものと信じて、今後とも取組を進める所存でございます。

本日の高校生議会が実り多きものとなりますことを祈念申し上げて、一言の御挨拶とさせていただきます。

だきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

○議会事務局長（宮元 広司君） ありがとうございます。

次に、御来賓を代表して、朝来市長、藤岡勇様から御挨拶をいただきます。

○市長（藤岡 勇君） 高校生議員の皆さん、こんにちは。市長の藤岡でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、朝来市議会100回記念事業として、高校生議会が開催されますこと、心からお慶び申し上げます。おめでとうございます。

市内にある二つの高等学校の代表の生徒の皆さんによります高校生議会ということで、次代を担う高校生の皆さんが議員になられまして、議場で市政に関する質問を行い、意見交換によって共に朝来市の地域の課題、まちづくりを考える場に、また、選挙権の年齢が引下げにより、政治や選挙が身近なものになった高校生の皆さんに、議会の雰囲気を体感してもらい、市の業務の内容の一端を知ることにより、地方自治への関心を高めるキャリア教育の機会と思っております。

本日は、ふだん質問されます立場にあります市議会議員の皆様が答弁されます。しっかりと練り上げてこられました質問をしていただければと思っております。私も傍聴させていただき、今後の地域の課題、そして、まちづくりの参考にさせていただきたいと考えております。

この高校生議会の経験が皆様の将来、朝来市の未来にとって有意義なものになりますことを御祈念申し上げまして私からの御挨拶とさせていただきます。今日はどうかよろしくお願いいたします。

○議会事務局長（宮元 広司君） ありがとうございます。

ここで、御来賓の方を御紹介いたします。

先ほど御挨拶をいただきました藤岡市長のほかに、朝来市教育長、千歳誠一郎様にも御臨席いただいておりますので御紹介いたします。

○教育長（千歳 誠一郎君） 朝来市教育長の千歳でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。皆さんの活発な御質問、大いに期待しておりますのでよろしくお願いいたします。

○議会事務局長（宮元 広司君） ありがとうございます。

それでは、開会までしばらくお待ちください。

午後 1 時13分休憩

午後 1 時15分再開

○議長（松田 聖琳君） 議長に就任しました生野高等学校の松田聖琳です。不慣れではございますが、皆様方の御協力をいただき、円滑な議事運営に努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

ただいまの出席議員16名、定足数に達していますので、令和3年度朝来市議会高校生議会を開会します。

本日の議事日程はお手元に配付しているとおりであり、朗読は省略します。

これから、本日の会議を開きます。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（松田 聖琳君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員に、7番、上垣凜夏さん、16番、秋山海渡君を指名します。

ここで、報道機関、学校広報担当者、市広報担当及び議会広報特別委員会から写真撮影の申出がありますので、これを許可します。

日程第2 会期の決定

○議長（松田 聖琳君） 日程第2、会期の決定を議題とします。

お諮りします。

本議会の会期は、本日1日限りとしたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松田 聖琳君） 異議なしと認めます。

本議会の会期は、本日1日限りと決定しました。

ここで、本日の議事運営について申し上げます。

本日の一般質問は、通告第1番から通告第16番までとしますが、通告第7番及び通告第8番については取り下げられましたので、質問を行いません。

また、通告第6番が終了後、休憩し、議長を交代します。

また、質問方式は、1人、一問一答のみとし、追加の質問は認めません。答弁については、市議会議員が行いますので、御了解願います。

日程第3 一般質問

○議長（松田 聖琳君） それでは、日程第3、一般質問を行います。

最初に、通告第1番、名倉みほさんの一般質問を許可します。

議席番号1番、名倉みほさん。

○議員（1番 名倉 みほ君） 私、名倉みほの一般質問をさせていただきます。

市議会のペーパーレス化について、三つ御質問させていただきます。

一つ目は、ペーパーレス化によって紙代や印刷費などが削減されたと伺っていますが、端末などの機器やその他のシステムの導入にどの程度の時間、費用、手間がかかりましたか。また、現時点でペーパーレス化が原因となって何か特に苦勞されていることはありますか。

二つ目は、現在導入されている機器やシステムなどを維持するために、今後、どれくらいの費用がかかりますか。

三つ目は、高度情報化社会では、ハッキングや個人情報の流出などの問題がよく起こっています。議会で端末を使うということは、このような問題に朝来市議会も直面する可能性があるということだと思いますが、現時点でどのような対処を考えておられるか、お聞かせいただければありがたい

です。

○議長（松田 聖琳君） 丸尾行子議員、答弁願います。

○丸尾 行子君 今日は御苦労さまでございます。

それでは、名倉議員からいただきました質問にお答えいたします。

まず、導入に要しました時間ではありますが、平成28年12月の議会改革特別委員会の設置から令和元年9月定例会の紙資料と併用のシステム運用開始まで2年9か月がかかりました。

導入費用は、タブレット47台分と文書共有システム導入初期設定、W i - F i 環境設備の整備、講習会費用などを含めまして、1,408万780円となりました。

かかりました手間でありますけれど、実際にタブレットを使いながら議会の皆様と職員の合同研修を2回いたしました。また、先進地への視察なども実施いたしました。あとは、各自の努力を重ねていただいて、今日に至っております。

ペーパーレス化が原因での苦労ではありますが、当局といたしましては、膨大な資料づくり、保存は大変簡素化されましたが、経費も削減できました。それでも、議員の皆様には、議案説明のときなど、タブレットに必要なメモを取る場合に操作に手間取る。また、議場での質問の際に、タブレットに濃縮されました資料から素早く必要な資料を得るのに時間と手間がかかるなど、御苦労があるかと思います。議員の皆様にとりましては、不利とも言えると思います。

次に、維持するためのランニングコストではありますが、年間210万7,512円となります。

最後に、ハッキング、個人情報の流出への対応ではありますが、市といたしましては、タブレット利用は、議会活動、議員活動に限定しまして、一元管理で利用できるアプリを制限し、追加なども許可が必要としております。タブレットの紛失時におきましては、24時間365日、遠隔で端末をロックするようになっております。

また、文書共有システムにつきましては、一定のセキュリティー条件を満たすシステムを導入するなど強化を図り、流出防止の対処をしておりますので、御理解いただきますようお願いいたします。

以上、名倉議員への回答といたします。

○議長（松田 聖琳君） 以上で、名倉みほさんの一般質問は終了しました。

次に、通告第2番、柴田唯さんの一般質問を許可します。

議席番号2番、柴田唯さん。

○議員（2番 柴田 唯君） 私、柴田唯の一般質問を始めさせていただきます。

観光地としての生野町の魅力について、御質問させていただきます。

生野町は、生野銀山や甲社宅、井筒屋などの観光スポットを有していますが、生野町の観光スポットで働く人からは、来訪者の少なさを嘆く声も上がっているそうです。観光客の来訪状況について、どのように認識されているかお聞かせください。また、それに対する対策についても、現時点での考えを教えてください。

○議長（松田 聖琳君） 吉田俊平議員、答弁願います。

○吉田 俊平君 それでは、お答えいたします。

朝来市では、平成21年に作成いたしました産業連関表の分析から、移輸出特化型産業を実現させるため、また、平成25年に策定しました企業立地促進法に基づく基本計画で、指定集積業種に観光関連産業を指定し、朝来市の主力産業である製造業や小売業に次ぐ新たな産業として、観光産業の確立を目指しているところであり、市内観光動態の推移は、御指摘のとおり、非常に重要な指標であると認識しております。

令和元年度決算から申し上げますと、市内観光入込み客数は、平成30年度と比して、マイナス6.0%になっておりますが、日本遺産の神子畑選鉱場跡への観光入込み客数はプラス30.8%となっており、日本遺産周遊バスツアー集客人数はプラス7.7%、黒川温泉の利用人数はプラス1.5%となっている一方で、生野まちなみ交流館がマイナス45.8%、旧生野鉱山職員宿舎がマイナス21.3%となっていることから、指定管理団体における主体的・能動的な活動を期待するところでもあります。

また、今後の観光政策につきましては、周遊型・滞在型観光の推進による市内観光消費額の拡大強化を図り、生野地域においては、今年度から旧鉱山職員宿舎の宿泊化による観光誘客を図り、生野クラブの修繕による観光拠点化も図りながら、市内観光入込み客数の増加を目指していきたいと考えております。

少し早くて時間がありますので、先ほど説明させていただいたことを重複させていただきますと、要は日本遺産の魅力については、非常に重要なものだというふうに認識しており、朝来市としても観光地の実現を目指しているというところでもあります。その一方で、日本遺産の集客がうまくいっている地域とうまくいっていない地域がありますので、その部分については、主体的・能動的な活動を期待しているというところでもあります。

また、今後の政策につきましては、市内をいかにして周遊していただくか、そして滞在していただくかという観光の推進を目指していきながら、生野地域においては、宿泊化による観光客の増加を図って、生野クラブの修繕による観光拠点化も図りながら、市内全体の観光入込みの増加、そして、連携強化を図っていきたいというところでもあります。

少しまだ時間がありますので、私が好きな論語の言葉を皆さんにお贈りしたいと思います。「後生畏るべし、焉んぞ来者の今に如かざるを知らんや」「四十五十にして聞こゆることなくば、これ亦畏るるに足らざるのみ」これからの人生を疑問をいろいろと持ちながら、人生にチャレンジしながら、頑張っていたきたいと思います。

以上、答弁を終わります。

○議長（松田 聖琳君） 以上で、柴田唯さんの一般質問は終了しました。

次に、通告第3番、桐山桃さんの一般質問を許可します。

議席番号3番、桐山桃さん。

○議員（3番 桐山 桃君） 私、桐山桃の一般質問をさせていただきます。

朝来市に人を呼ぶ取組について質問させていただきます。

私は小さい頃から生野に住んでいるので、生野限定の話になるのですが、生野高校生の中には、

探究活動の時間に生野町の魅力を調べたり、生野町のPRを考えたりしている生徒がいます。若い人の発言は目立ちやすいため、高校生によるPRは影響力が大きく、私はとてもすばらしい取組だと思います。また、この取組を通して、将来、高校受験をする中学生に生野高校の魅力を知ってほしいです。ですが、生野高校は今、生徒数が減少しており、また、生野町は、日本遺産の指定を受けたにもかかわらず、観光客数はあまり増えていないと思います。

以上のことを踏まえて、私から3点質問させていただきます。

まず一つ目は、生野高校生が検証しているという課題は、ひいては朝来市全体の人口の減少や高校受験をする中学生への働きかけという課題に関わっていると思います。生徒も先生方も考えているのですが、市議会の皆さんはこの課題について、どのようにお考えなのか。

二つ目に、その対策について考えていることがあればお教えいただきたいです。

最後に、生野を訪れる観光客を増やすために、PRのほかに取り組んでいることがあれば教えてください。

○議長（松田 聖琳君） 足立義美議員、答弁願います。

○足立 義美君 ただいま、桐山桃議員から質問いただきました件について、お答えいたします。

桐山議員が課題だと指摘されている生野高校生が減少していること、また、その解決策はあるのかどうか。そして、生野への観光客をどうしたら増やせるのかということは、朝来市政にとっても大変重要な問題でございます。

まず、生野高校生が減少していることは、私も生野高校の卒業生ということで、大変心配もしております。80人定員に対し、近年は定員割れが続き、特に令和3年度は48名の進学者しかございませんでした。但馬の高校は、生野高校ほどではありませんが、人口減少が加速し、同じ傾向となっています。これ以上定員割れが進行するようだと、早晩、統廃合が取り沙汰されるようになると懸念しております。有効な対策があるかといえば、なかなかありません。決め手に欠ける対策しか思いつきませんが、まず、生野高校が魅力的な高校でなければなりません。あなたがおっしゃるように、中学生がぜひ行きたいと思う高校となるためには、現在、取り組んでおられる鉾山町生野発未来型課題解決能力を持つ地域の担い手を育成するIKUNOモデルの研究開発が大きな成果を上げ、広く認知される必要があるんじゃないかなと考えております。

また、豊岡市に最近開学しました芸術文化観光専門職大学と連携を図れば、新しい何かが見えてくるんじゃないか、そんな気もしております。

さらに、過疎地の市町長が一致団結して兵庫県知事に存続を働きかける、そういう必要がある時期も来るんじゃないか、そう考えております。

生野を訪れる観光客を増やすためにPR以外に取り組んでいることにどんなことがあるかという件ですが、生野鉾山を訪れる観光客は、若干の増減がありますが、年間8万人程度です。日本遺産に認定された平成29年には、1割強の増加が見られましたが、日本遺産の認定を受けたところは全国で100か所以上ございます。そういうことで、なかなかこれだけで観光客を呼び込むことは力不足と言わざるを得ません。

観光客を増やす取組としては、一般的なPR以外に取り組んでいることとして、SNSを活用しての情報発信、周遊バスツアーの企画・造成、動画作成となっております。

本日は、大変重要な課題を指摘いただきました。今後の市政に生かしてまいります。ありがとうございました。

○議長（松田 聖琳君） 以上で、桐山桃さんの一般質問は終了しました。

次に、通告第4番、上垣凜夏さんの一般質問を許可します。

議席番号7番、上垣凜夏さん。

○議員（7番 上垣 凜夏君） 私、上垣凜夏の一般質問を始めさせていただきます。

旧4町合併の効果と問題点について御質問させていただきます。

朝来市は、2005年に旧朝来郡4町が合併して誕生しましたが、そのときには私たちは生まれておらず、合併に至ったいきさつ、理由を調べてもよく分かりません。そこで、合併に関して次の質問にお答えいただきたいです。

一つ目は、合併に至ったいきさつや理由を教えてください。

二つ目に、合併した目的どおりの効果はどのような場に現れているのでしょうか。

最後、三つ目に、逆に合併が原因で起こった問題はありましたか。あった場合は、その問題点についても教えてください。

○議長（松田 聖琳君） 渚本稔議員、答弁願います。

○渚本 稔君 それでは、上垣凜夏議員の御質問にお答えいたします。

最初に、合併に至るいきさつ、理由についての御質問がありました。

時代の流れとともに住民ニーズが多様化、高度化してきました。その一方で、過疎化、少子高齢化、人口減少が進行してきて、単独の市町村での解決が困難な課題が多く、財政も厳しい状況に直面してきました。そのような時代背景の下で、合併した市町村に有利な合併特例債という特別な債券が発行できるようになり、まちづくりに必要な財源として、事業費の95%まで借入れすることができ、返済していく償還金の70%が国から普通交付税として合併自治体に交付されるようになりました。その結果、平成の大合併という動きが加速して、約10年間で全国の自治体が半分の数に減少しました。

旧朝来郡の生野町、和田山町、山東町、朝来町による合併協議会が、2003年に発足し、2年間の協議を経て、2005年、平成17年に合併して朝来市が誕生したのです。

合併した目的どおりの効果に関して質問がありました。

合併特例債を活用して、中学校や小学校の建設・改修、こども園の整備、福祉施設の改修、市役所の建設などができました。これらの整備によって、住民サービスの充実に努めております。正規職員を合併時の500人から、現在では330人にまで縮減し、行政経費の大幅削減が実現しております。生野銀山や竹田城など、市内各地にある史跡名所を一体的に観光資源として活用できるようになりました。このため、朝来市への観光客は、平成30年度は227万9,000人の来訪となっております。

3番目に、合併が原因で起きた問題について質問がありました。

住民からは、行政が遠くなったという声が聞かれました。また、支所における決裁権限の問題を気にする住民もおられます。一方で、地域自治協議会がおおむね小学校区単位で設立され、地区だけでは解決できない問題を広範囲な地域全体で取り組み、支え合おうという住民主体の組織が設立・運営されております。また、住民票や印鑑証明などは、コンビニでも取得できるようにしたり、ＪＲと交渉を重ね、播但線の生野、竹田、和田山の各駅で、ＩＣＯＣＡが使えるようにしました。

このような取組をもって住民の不安を解消し、朝来市の発展を目指しているところでございます。たくさんの課題を抱えた平成の大合併の中の朝来市も同様の課題をまだまだ抱えておりますけれども、住民の皆様との対話をしっかりしながら、御理解と御協力の下に朝来市の発展を目指してまいりたいと思いますので、どうか御理解いただきますようよろしくお願い申し上げまして、答弁を終わります。

○議長（松田 聖琳君） 以上で、上垣凜夏さんの一般質問は終了しました。

次に、通告第５番、藤原朱里の一般質問を許可します。

議席番号８番、藤原朱里さん。

○議員（８番 藤原 朱里君） 私、藤原朱里の一般質問を始めさせていただきます。

今後の新型コロナウイルスについて質問させていただきます。

一つ目は、前回の緊急事態宣言が出されたときの朝来市の対策として、どんなことをしましたか。また、前回の経験を踏まえて、次に緊急事態宣言が出たときにどのような対策が必要だと考えていますか。

二つ目は、収入が減った人たちや子供がいる人たちへの支援として、今現在、どのようなことをされており、また、今後、どのような支援を考えておられますか。

三つ目は、昨年度春に緊急事態宣言が出た際は、私立学校では生徒がリモート講義を受ける環境等が整っていましたが、公立学校ではリモート講義の環境が整っておらず、休校中に継続的なリモート講義を受けることができませんでした。次に緊急事態宣言が発令され、もし休校になった際は、どのような支援が可能でしょうか。

○議長（松田 聖琳君） 岡田和之議員、答弁願います。

○岡田 和之君 それでは、藤原朱里議員に対する答弁をさせていただきたいと思います。

まず最初の御質問の、前回の緊急事態宣言が出されたときの朝来市の対策についてお答えいたします。

まず第一に、感染予防対策、医療体制の確保等に努めてまいりました。

二つ目に、ワクチン接種を推進いたしました。

そして三つ目に、学校等への対策ですが、感染防止対策とともに、児童生徒へのきめ細やかな健康観察を行い、心のケアにも努めてまいりました。

そして四つ目に、市内事業者への支援策といたしましては、あさご元気産業創生センターを窓口とした市独自の相談窓口を設置いたしました。また、コロナ禍により大きな影響を受けいてる事業者を支援するための事業を実施いたしました。

続きまして、後段の御質問についてお答えいたします。

次に緊急事態宣言が出されたときに、どのような対処が必要かとの御質問でございます。

ワクチン接種は急がなければなりません、それだけでは今の爆発的な感染の抑え込みや医療逼迫を防ぐことはできません、専門家も指摘しているように、感染症対策の根本に立ち、人の行動制限などの感染経路対策、検査による感染者の発見、保護などの感染源対策、ワクチン接種による免疫獲得という三つの柱を徹底することが必要です。これは、朝来市だけではできません。国や県に体制の整備を求めてまいります。

次に、2番目の質問にお答えいたします。

収入が減った人たちや子供がいる人たちへの支援としてどのような支援を行っているのかとの御尋ねでございますが、新たに開始しました2項目について、概要を申し上げます。

まず一つ目は、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金を支給します。今回は、ひとり親世帯以外が対象です。対象児童1人につき5万円の支給を行います。

二つ目として、経営支援策として、経営継続支援金の支給を行います。売上の減少率を基準に支援金を支給いたします。

次に、後段の、今後どのような支援を考えているのかとの御質問ですが、コロナ禍が1年半以上続いております。市民や事業者の状況は逼迫しています。国や県に要望して、2回目の持続化給付金や家賃補助などを求めたいと考えております。また、事業者が営業自粛を求めるときは、必ず補償も一体で行うことが必要です。関係機関と情報交換を緊密に行い、きめ細かな対策を打っていきたいと考えております。

次に、3番目の御質問にお答えいたします。

公立学校の休校中のリモート講義の環境整備について御質問がございました。

昨年春に休校になったときは、突然の決定だったこともあり、不十分な対応にならざるを得ませんでした。しかし、この間、タブレットなどの環境整備が行われています。課題としては、通信環境が家庭によって異なるために、全ての児童生徒がリモート講義に参加できる状況になっていないことです。御質問の、再び休校になったときの支援策としては、担当教員へのサポート、ルーターの貸出し、通信料の補助などが考えられます。現在、既に実施しているものもございますが、今後も対策を検討してまいりたいと、このように考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（松田 聖琳君） 以上で、藤原朱里さんの一般質問は終了しました。

次に、通告第6番、藤沢希さんの一般質問を許可します。

議席番号9番、藤沢希さん。

○議員（9番 藤沢 希君） 私、藤沢希の一般質問を始めさせていただきます。

どのように予算を決めているのかという質問をさせていただきます。

朝来市という大きな規模では、どのようにして予算を決めているのか気になり、この質問をさせていただきます。例えば、生野高校では、部費を決めるとき、顧問の先生に大会参加に伴う交通費

や連盟費を聞き、必要最低限の額を設定しているそうです。また、第一に、交通費と連盟費を決めると言っていました。規模は違いますが、市の予算も市民の声を聞きながら設定している部分もあると思います。ですが、全ての意見を反映させるのは非常に困難だと思います。年齢層の偏りや意見を集める方法など様々な問題があると思います。そこで、年配の方や若年層の意見をどのように取り入れて予算を決定しているのか教えてください。

また、7月12日の事前授業で、若者の遊び場が減っている問題の対策について質問させていただいたとき、お店を始めるときに補助金が出ていると聞きましたが、初めだけでは継続することは困難だと思います。継続的な補助費を予算に入れることができるか教えていただきたいです。

○議長（松田 聖琳君） 藤原正伸議員、答弁願います。

○藤原 正伸君 それでは、藤沢希議員の、どのように予算を決めているのかという御質問にお答えいたします。

予算を決めるということは、お金の使い道を決めるということですが、これは、地方自治法211条に決められていますように、市長が予算案を議会に提出し、議会の議決を経て決まります。今、市長が予算案を議会に提出すると言いましたが、市長が1人でつくっているわけではありません。予算案の作成は、市役所の全ての部、課が協力し、市役所全体で取り組みます。大まかに言いますと、まず、来年度の予算はどの方向性でつくると市長が方針を示します。これを予算編成方針といいます。その方針に基づいて各部署が、今、どのような行政サービスが必要か、どのような事業を行うべきかを検討し、それに必要なお金を積算し、要求します。これを予算要求といいます。その要求の内容を精査しまして、総合計画に定めるまちづくりの方針に照らし、必要性や優先順位を判断し、予算案が出来上がります。このときに、市長や職員は、まちづくりフォーラムや市民アンケートをはじめ日常の業務において直接・間接に把握した市民の皆さんの意見や要望、地域の状況といった要素についても検討いたします。予算案を作成するこの過程を予算編成といいますけれども、予算編成の本質は、まさに様々なニーズの優先順位づけと、それから利害調整であるということが言えます。

予算案の提出を受けた議会におきましても、市民の声を代表する議員が、このお金の使い方が市民の意向や地域のニーズに合致しているのかどうかということについて、議論を行いながら審議し、最終的に予算が決まります。市民の意見を反映させるとは、このように市民の皆さんの意見を把握し、多様な意見を調整してまとめていくことだと考えております。税金をはじめとする財源が限られておりますので、御指摘のように全てのニーズを満たすことはできませんが、様々な視点から対話を通じて合意形成を図っていくことが重要なことだと考えております。

次に、開業された方への継続的な支援についてですが、既に店舗の賃借料については、開業後2年間の支援としているほか、経営計画の分析や見直しなどについて継続的に助言、それから相談に対応しています。

ところで、補助金の財源は市民の皆さんからお預かりした税金でありまして、事業者への補助金というのは、いわば市民の皆さんからの事業者に対するエールです。そういった意味で、既存の事

業者との実質的平等というものを担保する必要がありますので、開業後は、いわゆる自走していただくことが基本と考えますけれども、御意見のとおり継続的支援ができれば、経験と実績のない創業者の不安を和らげるとともに、さらなる開業を促進できると考えます。今後、さらに合理的で有効な創業者継続支援について検討してきたいと思います。

以上です。

○議長（松田 聖琳君） 以上で、藤沢希さんの一般質問は終了しました。

ここで、議長交代のため、暫時休憩します。

再開は、午後2時15分とします。

午後1時55分休憩

午後2時15分再開

○議長（生田 瑞華君） 休憩前に引き続き、会議を再開します。

議長に就任しました、和田山高等学校の生田瑞華です。不慣れではございますが、皆様方の御協力をいただき、円滑な議事運営に努めてまいりますので、よろしくお願いします。

次に、通告第9番、日下部蓮君の一般質問を許可します。

議席番号5番、日下部蓮君。

○議員（5番 日下部 蓮君） それでは、私、日下部蓮の一般質問をさせていただきます。

私は、学校の授業で実施された議員の方との対話をした議会カフェで、朝来市の輸出に関する資料をいただきました。その資料を見ると、輸出額より輸入の額が多く、赤字になっていることを知りました。

そこで、朝来市における産業の収支を調べたところ、ほとんどの産業が輸入に頼っているという資料を見つけました。これでは、輸出が輸入を上回ることは難しいと考え、朝来市の強み、弱みについて調べました。

朝来市の強みは、岩津ねぎなどの付加価値の高い特産品や竹田城などの文化施設が上げられます。その反面、朝来市の知名度とテレビ番組などで取り上げられる竹田城の知名度がリンクしていないように感じています。あの有名な竹田城がある朝来市というふうになってほしいと思います。情報化が進む今日、知名度を上げるためにインターネットの活用は欠かせません。朝来市役所では、PR動画を制作し、ネットに上げておられました。議員の方はどのような方法で知名度を上げようとしているのか、お考えを聞かせてください。

また、私たちが考えた意見は、地域の方々の声を取り入れた動画の制作を提案します。制作の過程に地元の高校生や地域の方々が参加することで、よりリアルな声を聞くことが可能であり、高校生や住民も議会の方との接点ができ、議会を近くに感じることができるようになると考えています。そうすることで、高校生や住民の方の議会への理解が深まるいい機会になるのではないのでしょうか。

○議長（生田 瑞華君） 森田龍司議員、答弁願います。

○森田 龍司君 それでは、日下部蓮議員の質問についてお答えします。

まず、日下部議員が今回の高校生議会に参加いただいたことと、朝来市の市政に大変貴重な意見と興味のある提案をいただいたことに、心から感謝と敬意を表します。

さて、最初に、朝来の産業は、市外からの外貨を稼いでいない、つまり稼ぐ力が乏しいという同義づけをしてから、3点の質問をいただきました。1点目は、朝来の強みが、朝来市の知名度とリンクしていない。2点目は、知名度を上げるための方法について。3点目は、知名度を上げるための具体的な提案です。

最初に、朝来市は、付加価値の高い資源を持ちながらも、それが朝来市の知名度とリンクしていないという指摘についてです。例えば、食べ物、人情、おもてなしや歴史、自然、暮らしやすさなどの文化的な価値をつなぎ合わせることが、朝来市の魅力づくりにつながっていきます。つまり、資源と知名度がリンクしていない原因がそのつながりにあるとすれば、文化価値をつないでいくことが必要であるというふうに思います。例えば、岩津ねぎが付加価値をつけようと思ったときに、岩津ねぎのふるさとがあればいいですね。鉾山とのつながりがあるから、鉾山との歴史があればいい、そういう歴史をつないでいく。で、人々の暮らしをつないでいく。そういうもので知名度を上げていく、魅力をつくっていくことがとても大事なことじゃないかなというふうに思っています。

そこで、日下部議員は、知名度を上げる方法として、ネットの活用が欠かせないこと。具体的には動画の作成を提案しています。私がここで感心するのは、若者や地域の皆さんの参加は、多様な力を生かすことで、みんなが主人公になり、自己実現できるという大変重要なポイントの提案をしています。本当にすばらしい提案です。本当に感心しています。

私なら、吉本興業さんとタイアップする提案をします。吉本興業の芸人さんが出演する媒体やイベントなどのあらゆる場面で、朝来市をモチーフにしたギャグやコマーシャルの演出があると面白いですね。また、吉本新喜劇に、和田山高校、生野高校の生徒さんや市民の皆さんが出演しても面白い。吉本さんの強みである笑いと朝来市がコラボして、付加価値を高め、知名度を上げていくことも考えていきたいですね。

そして、日下部議員から提案があった動画には、吉本さんと市民と高校生の皆さんや私たち議員も、そこにいらっしゃる市長も出演する動画を作成したいですね。ぜひ、今後の大きな課題として、一緒に取り組んでいければありがたいなと思っています。

最後に、議会は、どのような方法で知名度を上げようとするのかという質問がありました。それはこうした提案を議会の中で議論し、政策につなげていくことが議会の役割です。そして、議員は、情報力を高めたり、マーケティングマネジメント力を養うなど、個々の資質を高め、よりよい市政に向けて政策論争をしていくことが必要だと考えます。

以上、答弁です。

○議長（生田 瑞華君） 以上で、日下部蓮君の一般質問は終了しました。

次に、通告第10番、津森恵斗君の一般質問を許可します。

議席番号6番、津森恵斗君。

○議員（6番 津森 恵斗君） 私、津森恵斗の一般質問をさせていただきます。

私は、駅前にアーケードを設置することで、朝来市の活性化につながるのではないかと考えました。私自身、総合的な探求の時間におけるフィールドワークで和田山駅前に行った際、シャッターが閉まっているお店を多く見ました。また、シャッターが開いているお店は、地元地域の方たちが経営しているところが多いと聞きました。

アーケードを設置することで、集客効果の期待が高まるので、新しく和田山駅前の商店街に出店する方にとっても、今、駅前の商店街でお店を経営されている方にとってもメリットであると考えられます。雨天の多いこの地域では、雨宿りに利用する方も多くなると考えられます。雨宿りも兼ねて商店街及び飲食店に立ち寄る人も増えるでしょう。ほかのメリットとして、アーケード下を利用し、季節ごとの祭りやフリーマーケット等のイベント事業を炎天下であれ、雨天時であれ開催することができます。他府県の商店街では、アーケード下を利用してビアガーデンを開催しているそうです。このように、アーケードを設置するメリットは多いので、設置を考えてみてはいかがでしょうか。

○議長（生田 瑞華君） 小山裕議員、答弁願います。

○小山 裕君 それでは、ただいまの津森恵斗議員の質問は、駅前開発においてアーケードを設置することにより、集客効果が高まり、新たな出店効果を上げることができる。さらに、既存の店舗においてもメリットがあるとの提案をいただきました。

本市におきましては、令和元年より、朝来市和田山駅前活性化事業として、和田山駅前地域の空き家・空き店舗を利用して開業する事業者に対して補助を行い、同地域ににぎわいをもたらし、起業等の機会をつくり出す事業を行っております。実績としましては、令和元年には、飲食業1件、小売業1件、令和2年は、飲食業1件、令和3年には、飲食業、小売業、理容業1件と、これまでにこの事業を受けて、計6件が開業されております。補助内容は、改装補助、家賃補助が含まれており、開業する条件としては大変有益なものと考えております。進捗状況としましても、計画どおりの状況と判断しております。

今回の提案は、さらにバージョンアップしたものと判断しており、有効な提案として受け止めております。この地において、どのような店舗経営が求められるか、改めて考える機会をいただきました。これまでの既存のアーケードのイメージではなく、提案者のイメージする店舗等はどうなのかなのか、過去には、和田山町時代でございますが、土地区画整備事業により、駅北地区が整備され、新たな住宅が開発されましたが、この駅北地区とJR和田山駅、駅前商店街をつなぐことにより、人の流れを呼び込み、さらに、御提案のあったアーケードの在り方、形態を吟味する中で、駅周辺の活性化も期待できるのではないかと思います。クラウドファンディング等による提案、構想など、シーン確保も含めて考えていけば、より効果的なアーケード構想が成り立つのではないかと考えております。

今回、フィールドワークによってこういった形で提案していただいております。今後ともこういったすばらしい提案をぜひやっていただきたいということを期待しまして答弁とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（生田 瑞華君） 以上で、津森恵斗君の一般質問は終了しました。

次に、通告第11番、村田萌佳さんの一般質問を許可します。

議席番号10番、村田萌佳さん。

○議員（10番 村田 萌佳君） それでは、私、村田萌佳の一般質問をさせていただきます。

私は、朝来市の駅から自宅まで徒歩で帰宅することがあります。基本的には、明るい時間帯に帰っていますが、学校の補習などがあり、遅い時間帯に帰宅する際、街灯が少ないため、防犯の観点などから恐怖感を抱きながら帰路につくときがあります。街灯が少ないことで、私たち高校生は、自動車が行き交うのを認識するのが遅れたり、障害物につまずいてしまったりする可能性が高くなってしまいます。朝来市内でも街灯が多い地域と少ない地域があるように思います。街灯が少ない地域に設置しても、経費のみがかかってしまうという問題点が生じます。

そこで提案です。朝来市の学生たちの通学路に人を感知したときのみ点灯する街灯や、足元のみを照らすことのできるライトを設置することで、学生が不安感を抱くことなく安全に登下校できるのではないかと考えたのですが、いかがですか。

○議長（生田 瑞華君） 浅田郁雄議員、答弁願います。

○浅田 郁雄君 それでは、村田萌佳議員の質問にお答えいたします。

村田議員は、駅から自宅まで徒歩で帰宅するようですが、その日の天候にもよりますけれども、確かに夏場は夜7時でも明るいと思いますが、しかし、冬になりますと、5時、6時ぐらいになったら、大変日が暮れるのが早くて真っ暗になります。また、村田議員が補習、また部活動で帰りが遅くなると、学校を出るときには既に真っ暗になっているときもあると思います。それに、足元が暗いと事故にもつながります。むしろ、足元が暗いということは、目をつむって帰りなさいということと同じことになります。石ころがあっても蹴つまずくこともあります。穴があっても足をくじくこともあります。大変大きな事故につながる場合もありますし、防犯の観点からしてもよくないと思います。犯罪というのは、明るいときに起きるのは比較的少なくあります。やはり暗いところで犯罪は起きるものでありますので、そういう防犯の観点からしても大変、今後考えていかななくてはならないと思います。

今現在では、区内の街灯に関しては、各区で取り付けるようになっていまして、区長さんに言うていただければ、街灯を設置してもらえるものと思います。しかし、区内に街灯を多く設置すると、設置費用も電気代も多くなります。そのために、最近では街灯のライトをLEDというものに変える区が多くなっています。少しでも電気代を抑えるためのものです。

村田議員から、通学路に人を感知して点灯する街灯や足元だけを照らすライトを設置するなど、大変いい提案をいただきました。今後、この提案についていろいろ精査して、考えさせていただきたいと思います。ちなみにですけれども、現在、各区内に設置している街灯については、冬の時間と夏の時間も明るさが全然違うと思いますので、暗くなると点灯して、夜が明けて明るくなると消灯する街灯がほとんどであるように思います。

以上、私の答弁といたします。ありがとうございました。

○議長（生田 瑞華君） 以上で、村田萌佳さんの一般質問は終了しました。

次に、通告第12番、植村琴寧さんの一般質問を許可します。

議席番号11番、植村琴寧さん。

○議員（11番 植村 琴寧君） それでは、私、植村琴寧が一般質問をさせていただきます。

友人が朝来医療センターで受診した際に、産婦人科のある他地域の病院を紹介されました。その後も、他地域の産婦人科のある病院で複数回受診しなくてはなりませんでした。

先日、和田山高校での議会カフェで、文教民生常任委員会の方たちのお話を聞かせていただいて、人口の自然増減と社会増減の仕組みを知り、子育てについてより深く考えるようになりました。私自身も将来的に子育てしやすい環境下での仕事や生活を望んでいます。朝来市の子育て世代のアンケートでは、子育て環境について、「非常に満足」及び「満足」と回答している割合が半分以上となっていました。現状では、統計上おおむね朝来市民は子育て環境について満足していますが、私の友人のように何度も他地域の産婦人科を受診しなくてはならない状況の人が増えると、朝来市で子育てをしたいと考える割合が減ってしまうのではないのでしょうか。

そこで、提案です。朝来市に産婦人科を立てることや、朝来医療センターに月に何度か産婦人科の医療に来ていただくということはできませんか。

○議長（生田 瑞華君） 上田幸広議員、答弁願います。

○上田 幸広君 それでは、植村琴寧議員の質問にお答えさせていただきます。

植村議員の御質問は、朝来市に住み、出産し、子育てをしようと思う方にとっては、当然な希望であり、思いであると思います。我々市議会も、この朝来市で出産ができないという大きな課題の解決を模索してまいりました。しかし、残念ながら、今現在においても市内で出産をすることができないのが現状であります。

地域医療・健康課の調べによりますと、近年の朝来市の出生数は、平成30年、210人、令和元年、171人、令和2年、184人となっており、ちなみに昨年において、妊婦の方の出産場所として一番多かった順に、八鹿病院で54人、2番目が豊岡にある但馬こうのとり周産期医療センターで48人、3番が福知山市の岡本産婦人科で22人、4番目に福知山市民病院で13人、次に姫路聖マリア病院10人、その他、兵庫県内の病院9人、県外の病院15人となっています。このように市内では産婦人科がないため、朝来市周辺の病院で出産となります。

では、なぜ市内に産婦人科の病院がないのかという問題になります。この問題は、朝来市だけの問題ではなく、全国的に産婦人科の医師の成り手不足という大きな問題があります。新聞などでも近年、全国的に産婦人科医師の数や病院数が減少しており、緊急時に近くの病院で診てもらうことができないなど、妊娠、出産に関して安心して過ごせない環境になってきていると報じられています。出産は、昼夜の時間を問わないため、それに対応する産婦人科医師は、常に待機していなければならない、就業時間以上の連続勤務など、長時間労働を余儀なくされることや、母子ともに危険を伴う出産での医療事故が起きた場合の訴訟リスクが高いことなどがあり、このような過酷な勤務環境のため、若い医師の中で産婦人科を希望するものが少なくなり、結果として現在のような産婦

人科医師不足の問題が生じております。

但馬地域でも出産できる医療機関は、以前は5施設ありましたが、現在は八鹿病院と豊岡にある但馬こうのとり周産期医療センターの二つしかありません。この二つの施設を但馬地域全体で有効に利用するため、それぞれが役割分担を行い、運営されております。

八鹿病院では、比較的风险の少ない正常分娩の妊婦さんを受け入れ、但馬こうのとり周産期医療センターにおいては、兵庫県の地域周産期母子医療センターに指定されておりますので、新生児特定集中治療室も整備され、低体重出生児や呼吸障害児などの治療も行うことも可能であり、若年・高齢出産など、リスクの高い妊婦さんも受入れをされております。

このような全国的な産婦人科の医師不足の中で、私たちの住む但馬地域での医師確保は、想像以上に厳しいという現実があります。しかし、未来に目を向けると、Society 5.0やIoT、ICTの進化、また、デジタルトランスフォーメーションなどの技術革新により、新しい社会により医療環境も大きく変わる可能性もあります。このような技術が進化していけば、近い将来、植村議員の御提案の産婦人科医院の開設も可能になるかもしれません。

また、朝来医療センターへの産科医師の定期的な健診については、藤岡市長も強く、豊岡病院組合に要望されておりますので、現実に向け、病院組合と協議を検討してまいります。

以上で答弁を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（生田 瑞華君） 以上で、植村琴寧さんの一般質問は終了しました。

次に、通告第13番、坂本悠紀君の一般質問を許可します。

議席番号12番、坂本悠紀君。

○議員（12番 坂本 悠紀君） それでは、私、坂本悠紀の一般質問をさせていただきます。

3年生のこの時期になると、就職希望者には求人票が公開されます。実際に求人票を見てみると、様々な求人を目にすることができます。和田山高校では、企業の方や就職された先輩からお話をさせていただく機会や、座談会形式を用いて少人数でお話ができるキャリアトークカフェ、企業説明会、就労体験など、多くのイベントがあります。その中で、自分の意識を高めたり、就職に関する知識を増やすことができます。また、先生に聞いたところ、和田山高校の進路希望調査、就職希望者の動向の結果をハローワークを通じて企業の方にお伝えしてもらっているということも知りました。

しかし、企業の方へ高校生のありのままの声を聞ける機会が少ないということを感じています。高校生がどんな職場で働きたいか、何を重視する傾向にあるのか、どんな考えを持っているかなどを知ってもらうことで、地元に残る高校生の発掘をしてもらえるかもしれません。また、高校生の意見を一方的に伝えるだけでなく、企業の方が求める能力や資質などを理解することで、自分たちが高校生活で身につけるべきものが見えてくると思います。それだけでなく、地元にある企業のことを知る機会が増え、その魅力に気づくことになるかもしれません。

そこで、朝来市の企業と高校生が対話をするイベントの開催を提案いたします。

○議長（生田 瑞華君） 嵯峨山博議員、答弁願います。

○嵯峨山 博君 それでは、坂本悠紀議員の一般質問にお答えさせていただきます。

まずはこのように前向きな御提案をいただきましたこと、本当にうれしく思います。

朝来市の現状を申し上げますと、高校を卒業され、約8割の方が大学等へ進学されます。高校卒業後に地元企業へ就職される方は少なく、多くの地元企業は労働者不足に悩まされ、課題というふうになっております。朝来市創生総合戦略の一つに、魅力ある多様な仕事づくりを基本目標に掲げておりまして、各年齢層に応じてキャリア教育の推進や、市内の仕事の魅力や、やりがいなどを伝えることによりまして、1人1人の希望に応じた多様な働き方や、経済活動の実現につなげ、朝来市の経済活性化を推進しようというふうに考えております。

そうした中で、小学生、中学生、高校生、大学生などについては、各段階に応じまして、生き方や多様な仕事、働き方を知っていただいたり、魅力に触れたりする機会をつくるなど、情報発信やキャリア教育の充実を進め、雇用人材の確保を図っていくこととしております。

詳細に申し上げますと、UIJターンを希望する学生や、既に卒業された方の就職を支援するジョブサポあさごの運営や市内事業所の事業内容や求人情報を掲載した、朝来市就活サポートブックを作成しまして、市内の中学1年生、それから、近隣高校の3年生、近畿内の大学のキャリアセンターや高校を卒業して3年目の方の実家にその就職ブックを送付させていただいております。

また、市内の高校生を対象としまして、市内企業の見学、若手職員の方との対話を通じて企業の魅力を知っていただき、将来の地元就業への意識を高めることを目的に、ASAGO i NG、U-18、仕事ゼミを開催させていただいております。

また、誰もが安心して希望に応じたやりがいのある働き方の実現としましては、若者が働きやすい環境をつくる必要があります。そのためには、労働時間など、若者の働く価値観に応じた就業環境づくりや、働きながら資格や技術などを習得できる仕組みが必要であるというふうに考えております。

高校生が企業を知り、企業が高校生など若い方の考え方を知る上では、御提案いただきました対話ができる場が必要であるというふうに思いますけれども、高校生全員を対象としたイベント開催につきましては、関係者との協議が必要となること。そして、授業としての時間が今以上に必要になるなど課題もございますので、開催につきましては、検討させていただきたいというふうに思います。

まずは、現在行っておりますキャリアトークカフェなど、御提案いただきました内容を取り入れるなど、ブラッシュアップを行いまして、よりよい事業にしていきたいと考えますので、御理解いただきますようよろしくお願い申し上げます。

また、個別に御相談いただければ、総合政策課、経済振興課での対応をさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。答弁とさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（生田 瑞華君） 以上で、坂本悠紀君の一般質問は終了しました。

次に、通告第14番、秋山海渡君の一般質問を許可します。

議席番号16番、秋山海渡君。

○議員（16番 秋山 海渡君） それでは、私、秋山海渡の一般質問をさせていただきます。

高校生の考える上級学校の建設について質問させていただきます。

私たちは、朝来市に上級学校を建設することを提案します。このように考えることになったきっかけは、本校で議員の方たちと対話することができた議会カフェです。そこでは、以前、朝来市で看護系の大学を建設するという計画があったこと、そして、この計画が実現せずに終わってしまったことを聞きました。そこで、私たちは朝来市の自然の豊かさを生かした農林業分野の大学、専門学校の設定を提案します。

農林業に特化した大学を設立することで、朝来市の若者が農林業を始めるに当たって、全く分からない未知の分野に挑戦するというハードルを下げるができると思います。そして、そこで学んだ学生が、農林業関連の仕事に就くことで、担い手不足を解消できるだけでなく、そのまま朝来市に残ることができるので、人口減少の対策にもつながるのではないかと考えています。

莫大な費用がかかることは分かっていますが、朝来市の将来のためにもメリットが多く、朝来市の特性も生かすことができ、ほかの但馬地区の市町のモデルにもなるのではないのでしょうか。御検討をお願いします。

○議長（生田 瑞華君） 西本英輔議員、答弁願います。

○西本 英輔君 それでは、秋山海渡議員の一般質問にお答えします。

農林業に特化した大学や専門学校などを新たに設立することで、朝来市の人口減少、また、農林業の担い手不足といった諸問題の対策になるのではないかという趣旨の御質問、御提案でございます。

朝来市の人口社会減の現状といたしまして、高校卒業後の進学を契機に朝来市を離れるケースが主な要因となっており、中学時代の人口を100%とした場合、20代前半に約50%まで減少、その後、Uターンにより、20代後半から30代前半にかけまして、約60%まで回復しておりますが、年々その比率は減少傾向にあります。

また、農林業、畜産を含む経済活動の就業人口減少や後継者不足なども合わせまして、当市の喫緊の課題となっており、それを打破し、朝来市に活気と活力をもたらす可能性を秘めたすばらしい御提案であると感じております。

しかしながら、議員もおっしゃいましたとおり、上級学校の設立となりますと、その規模にもよりますが、莫大な費用が必要となります。参考に申しますと、本年4月、豊岡市に芸術文化観光専門職大学が開校されましたが、市の各年度当初予算によりまして、平成30年度に約1,000万円、平成31年度に約12億円、令和2年度に約56億円が計上されております。この設立に係る総事業費は、約70億円となっております。この総事業費というのは、建設をする部分だけではなくて、学生を集めるのに、日本全国、高校などにPRをする費用だったりとか、また、この専門職大学を造るに当たって、地元への啓発であったりとか、様々なものが費用として含まれております。また、運営交付金として、本年度当初予算では、約10億円が計上されております。

他方、朝来市の財政状況と申しますと、本年度の朝来市の一般会計予算、これは朝来市議会6月定例会で可決されました補正予算まででするので変動はしますが、約200億円。また、令和元年度の

一般会計決算歳出総額が約225億円であることを鑑みますと、朝来市にとりましては、非常に大きな費用であり、また、上級学校設立を考える場合、その財源が大きな課題となっておりま

す。設立の方法には、自治体が自前で設置し、運営を行う公設公営のほか、用地や資金提供を行い、学部などの誘致や設置支援を行う公私協力。設置経費を全て負担し、運営主体は学校法人である公設民営といった幾つかの方法がありますので、国県の補助や動向、朝来市における公共施設の再配置との兼ね合い、また、一つの自治体ではなく、複数の自治体で行うといったケースもありますので、朝来市単独で難しいというのであれば、近隣自治体との協力もしっかりと視野に入れながら、前向きに調査研究を行っていかねばと考えております。

以上です。

○議長（生田 瑞華君） 以上で、秋山海渡君の一般質問は終了しました。

次に、通告第15番、竹島朱音さんの一般質問を許可します。

議席番号17番、竹島朱音さん。

○議員（17番 竹島 朱音君） それでは、私、竹島朱音の一般質問を始めさせていただきます。

授業の一環で、駅前周辺のフィールドワークに出かけることができました。そのときに、大蔵地区の方とお話をする機会があり、その中で駅前に移動販売があれば便利だということをお聞きしました。その背景には、高齢者の方がスーパーなどへ移動する手段が限られているという問題がありました。買物はしたいが、行くことができない、近所に買う場所がないというお悩みでした。

さらに、調べてみると、かつては和田山駅前トラ市という、月に一度のイベントがあり、そこでは新鮮野菜や鮮魚などが販売されていたという事例を見つけました。したがって、この和田山駅前トラ市を再度開催させることで、高齢者の方の買物がしやすくなると思いました。

和田山駅前トラ市を復活させるだけでなく、季節に応じた地域の特産品、例えば、岩津ねぎ、黒大豆、イチゴなどを販売することで、地域の方だけでなく、外部の方も来てもらえるようなイベントになるのではないかとというのが、私たちの提案です。

○議長（生田 瑞華君） 小山裕議員、答弁願います。

○小山 裕君 それでは、ただいまの竹島朱音議員の質問は、移動販売について、特に高齢者の買物についての移動販売の提案であり、和田山駅前トラ市の再開に関する提案だったと認識しております。

現在の移動販売については、民間での移動販売が実際されているようではございますが、今回の提案においては、イベント的意味合いのものと判断できます。和田山駅前トラ市については、毎年第4土曜日の午前9時から午後12時まで、軽トラック、軽自動車を店舗にした朝市、軽トラ市が和田山駅前のトラ市実行委員会の皆さんによって開催されてきました。実行委員会は、10名の委員で、朝来市商工会の事業として開催され、当初は、40軒の出店があり、好評ではありましたが、ここ数年は10軒程度の出店となり、来客数の減少も伴い、本来の目的は終了したものとした判断により、2020年で10年を迎え、2020年1月の開催をもって終了されました。

現在のコロナ禍において、販売形態が変化しつつあり、こうした対応可能な店舗、企業が増えて

いるのではないかと考えられます。また、コロナ禍終息後に、こうした民間の協力を促し、新たな移動販売の可能性を模索したいと考えております。

先ほどの津森議員の提案にもありましたように、アーケードを設置することにより、こうしたイベント的事業は、天候に左右されることもなく、運営側においても、また利用者側においても、有用性が高いものと考えております。

今回、フィールドワークという授業の一環としてされたこと、大変重要だと思います。改めてフィールドワークの内容を調べさせていただきました。フィールドワークとは、ある調査対象について、学術研究をする際に、そのテーマに即した場所、現地を実際に訪れ、その対象を直接観察し、関係者には聞き取り調査やアンケート調査を行い、そして、現地での資料の取得を行うなど、学術的に客観的な成果を上げるための調査技法でございます。このようなことを授業の一環とされて、今回、私のほうまで二つの提案をいただきました。改めてフィールドワークの重要性を再認識したに至っております。議員といたしましても、こういった心がけをしっかりと忘れずに進めていきたいというように思いますので、今後ともこういう機会がありましたら、よろしくお願い申し上げます。以上でございます。

○議長（生田 瑞華君） 以上で、竹島朱音さんの一般質問は終了しました。

次に、通告第16番、関惇平君の一般質問を許可します。

議席番号4番、関惇平君。

○議員（4番 関 惇平君） 私、関惇平の一般質問をさせていただきます。

Uターンしたくなる朝来市の奨学金返還支援制度について、どのようなものを考えておられるのかお聞きしたいです。

このように考えたきっかけは、朝来市の人口ピラミッドを見て、20歳から24歳の間の人口が少なく、25歳を境に年を重ねるにつれて人口が増加しているという現状を知ったことです。リーサスという地域のことを分析するサイトを見ても、朝来市の20歳から24歳の将来的な人口は極端に減少しています。私自身、現在、大学進学を考えており、地元の朝来市を離れて過ごすことになる可能性があります。就職希望先を決める際、地元である朝来市にUターンしたくなるような取組に興味を持ち、朝来市の奨学金について調べました。

朝来市には独自の奨学金制度があるのは把握しています。しかし、その制度を利用するには、朝来市に戻ってきたときに、就職先として選択できる企業が限られています。ほかの市に目をやると、お隣の養父市では、独自の奨学金制度について、利用条件に、養父市に移住する意思のある者というものがあります。しかし、就職先の限定は特にされていません。

そこで、提案させていただきたいです。ほかの市の状況を踏まえて、朝来市においても奨学金返還応援企業支援制度の条件を緩和してはどうでしょうか。

○議長（生田 瑞華君） 森下恒夫議員、答弁願います。

○森下 恒夫君 それでは、関惇平議員の質問にお答えいたします。

まず最初に、リーサスのデータをお示しいただきました。データが示すとおり、まさに若者の定

着率が低いことが、朝来市にとりまして大変大きな問題と考えております。若者の確保は、単に経済問題にとどまらず、福祉や防災、その他、多方面で期待されておるところであります。まさにまちの活力そのものと考えております。

Ｕターンしたくなる奨学金、補助金による若者の起業について質問をいただきました。

まず、奨学金返還支援制度でございますが、御指摘のとおり、本市においては市内企業に限定しております。この制度は、企業就業者確保支援補助金が正式名称でありまして、市内企業の就業者確保を支援することを目的としております。就業者に対して、企業が独自に奨学金返還支援を行っている企業に限り、申請に基づき年間返還額の３分の１を市が補助するといった内容で、企業、県、市が協調して補助を行っております。したがって、この制度の中では、市外企業への補助ということになりますと、これについては問題があるというふうに考えます。

養父市さんの例が出ましたが、養父市さんの場合は、Ｕターン政策として養父市さん単独で実施されているようでございます。

朝来市では、Ｕターン者を増やすための政策といたしましては、地元就職したいと思っていただける魅力ある企業の誘致が大事と考え、これに取り組んでおるところでございます。また、企業を誘致しようとしみますと、場所が必要となつてまいります。そのため、企業団地の整備を、現在、計画中であります。

もう一点、若者の起業についても質問いただいております。起業に向けた支援制度といたしましては、朝来市にぎわい創出事業や和田山駅前活性化事業等がございます。また、あさご元気産業創生センターでは、起業希望者に伴走型のきめ細かな支援を行っているところでございます。現在、市内各地で大勢の方がこれらの制度を活用され、事業をされております。

冒頭に述べましたが、若者の少ないまちは活力も発展性ありません。シビックプライドを持ち、このまちで頑張ろうと思っただけの若者を増やすために、今後とも取り組んでまいる所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（生田 瑞華君） 以上で、関惇平君の一般質問は終了しました。

以上で、本高校生議会の会議に付された事件は全て終了しました。

これをもって閉会したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（生田 瑞華君） 異議なしと認めます。

会議を閉じます。

朝来市議会高校生議会の閉会します。

○議会事務局長（宮元 広司君） 皆さん、大変お疲れさまでした。

会議を閉じるに当たり、森下副議長から講評をいただきます。

副議長、お願いします。

○副議長（森下 恒夫君） 高校生議員の皆様、大変お疲れさまでございました。このような議場で

演壇に出て質問するということは大変緊張されたのではないかなと思います。私どもも、いまだに質問に立つ際には緊張いたします。今回は6分間の質問時間でございましたが、私どもは50分の質問時間で質問いたしております。この50分の中で質問と、当局の答弁と、合計して60分ということでございます。答弁は、何人かの方が答弁に立たれますので、担当部局の部長さんですとか、それぞれ答弁の長さも違います。したがって、なかなか時間どおりに収めるということが難しゅうございます。限られた時間内でいかにたくさんのことを、しかも、深く質問できるか、これが議員それぞれの質問能力ということになってくるわけでございますが、私につきましては、何回しましても上手にやれたためしがございません。

本日の皆さん方のそれぞれの質問項目、大変様々な質問をいただきました。日頃、皆さん方はこういったことをお考えになって学校生活を送っておられるんだなということで、大変感心いたしました。これらの質問の中には、私どもと思いを同じくする質問もたくさんございました。問題意識を持つということは大変大事でございます。問題意識を今後とも磨いていただきたいと思うわけですが、今日の答弁した議員の皆さん、答弁には大変苦勞もされたと思いますが、同じような問題意識を持っておりながら、じゃあ、それに対する解決策を持っておるかといいますと、やっぱりなかなか難しい点がございます。日々、議論を重ねながら、それぞれの委員会で取り組んでおるところでございます。

今回のこのような高校生議会、一度きりにすることなく、また今後とも継続して、高校生の皆さんと一緒にこの朝来市をよりよい市に発展させていくということで、今日は大変心強い味方を得た思いでございます。どうか今後とも市政に関心をお持ちいただきながら、様々な声を、質問の中にも言われましたけども、こんな就職先を誘致してくれと、今までは入りたい企業がないじゃないかとか、そのようなことでも、どのようなことでも皆さん方から市当局にもお声をお届けいただいて、当局も我々議会も、また市民の皆さんも一緒になって、少しでもこの朝来市が発展してまいりますように、今後とも頑張っていきたいと思っております。

本日は誠にありがとうございました。

○議会事務局長（宮元 広司君） ありがとうございました。

以上をもちまして、令和3年度朝来市議会高校生議会を終了します。

お疲れさまでした。

午後3時13分閉会
